

# 『海外奇談』における傍訳（二） A Study on Ruby in Haiwai Qitan

于 增輝  
Zenghui YU

## Abstract

The Treasury of Loyal Retainers is a Chinese edition of the Japanese novel Kanadehon Chushingura, one of the best kabuki plays in Japan. The author of The Treasury of Loyal Retainers has marked Japanese explanations (side translation) on the left side of the corresponding Chinese words to make them easier for the readers to understand. In this paper, all the Chinese words with the side translation were extracted and arrayed according to the index of pronunciation so as to produce a Chinese corpus and meanwhile to investigate the absorption and utilization of Chinese in Japanese.

【キーワード】『海外奇談』 傍訳 漢文小説

## 目次

1. はじめに
2. 研究対象
3. 本文傍訳翻刻と研究
4. 終わりに

## 1. はじめに

『海外奇談』（以下は『奇談』と略称する）は『かな手本忠臣蔵』の筋や展開を換えず、中国語に訳した書物であり、日本漢文小説と呼ばれる。本文は全部漢語で書かれ、補足説明として日本語の振り仮名が付されている。傍訳を付されていた語彙を作品から抜き出し、アルファベットの字音順で並べた試みは、実用的な唐話データベースを成し遂げようと同時に、漢語が日本語に使用され、受容された様子並びに当時日本人の高い唐話レベルが伺えるのではないかと思われる。本稿は語学教育研究所創設 30 周年記念フォーラム「『海外奇談』における傍訳（一）」（2015）の続編である。

## 2. 研究対象

『奇談』は『仮名手本忠臣蔵』の筋や展開を変えず、中国語に訳した書物である。写本、10 回。清・鴻濛陳人重訳、乾隆五十九年（寛政六年）正月上元鴻濛陳人題辞。原文に懶所先生の訓点と送り仮名、また振り仮名が施されており、序文には文化十二年（1815 年）乙亥五月吉日、觀成堂繙梓とある。

香坂 1983 によると、『奇談』という本は文化 12 年（1815）に上梓された。この本は、竹田出雲が寛永元年（1748）に竹本座のために書き下ろした浄瑠璃『仮名手本忠臣蔵』を中国の白話文（口語体）をもって、翻訳したものである。鵬齋老人（亀田鵬齋）が序を書いており、その序によると、「自分の学生が水滸・女仙二史の例にならって、稗史の言をかりて翻訳した」ものを「西方の旅人がこれを入手し本国に持ち帰った。鴻濛陳人という人がこれを市中で買い、筆を加え、繁を去り絮を除き、誤りを正し、『海外奇談』という書

名を冠した」ということになっており、一方、鴻濛陳人なるものが、序に続いて「忠臣蔵題辞」をのせ、鵬齋の序とその符節を合わせている。その題辞に次のごとくいう。「鴻濛子は市中で忠臣蔵という奇書を購入した。読んでみると、稗史の筆づかいで、海外の仇討ちのことを書いてあり、好事家が異域の俳優の脚本を訳したものであった。しかし、文章が俗に過ぎ、誤りも少なくなく、読むに堪えないので、閑遊宴席の話題にでも思い、卓老（李卓吾のこと）の『水滸伝』にならって潤色補訂した」。

この限りにおいては、この本は、先ず日本人によって翻訳され、中国に入り、中国人によって筆削が加えられ、再び日本に入ってきたものと考えられる。

陳 2001 によると、『奇談』は長い間、清人に訳されたものと取り扱われた。中国の学者によるこの本の紹介では「一七九四年（清乾隆五十九年、日本寛政六年）鴻濛陳人の漢訳日本『仮名手本忠臣蔵』は題名『海外奇談』で全十回。これは中国文壇が日本の戯曲小説を漢訳したはじめである」と述べた。

しかし、一度閲読したならば、本文を読み終えるに堪えないもので、これが中国人の書いたものでないことはわかる。先行研究者によると、『奇談』は実際日本人が中国人の名義をかりて創作した漢文小説であり、いわゆる「鴻濛陳人」云々は仮の名である。現在『奇談』が中国人に仮託して創作した日本漢文小説であることは既に通説になっている。

### 凡例

- (1) 東京都立中央図書館所蔵を底本とし、ほかの版本を参照した。
- (2) 2b の 2 は底本の葉数、a、b は表裏である。
- (3) 傍訳はカタカタで表記されたので、括号の内容は漢字または平仮名表記にしたものである。
- (4) 文字のアルファベットの字音順で並べたが、ページ数の都合で今回は J ～ M までの語彙を並べた。
- (5) 同じ見出し語の場合、ページ数が違うため、そのまま延べの形で並べた。

### 3. 本文傍訳翻刻と研究

#### J

稽遲	19a	オソナワル（遅なわる）
稽留	42b	オソナワルガサイゴノスケ（遅なわるが最後の介）
機関	98a	イ、ハリゴシラヒ（言い張り拵い）
機會	7a	ウツトキ（打つ時）
積祖	36a	センソ（先祖）
即時	26b	サツソク（早速）
急歩人	80b	イソギノヒキヤク（急ぎの飛脚、早飛脚）
急急飛報	61b	キウニシヨメンニテシラセル（急に書面にて知らせる）
急忙	46b	イソガシイ（忙しい）
幾乎下雨	74a	ナキツ、ケニナヒテ（泣き続けに泣いて）
擠撮	12b	アナトリ（侮り）
伎倆	95a	ゲイツクシ（芸尽し）
計謀	68b	ケイリヤク（計略）
既然	19b	ステニ（既に）
記得	4a	オホヘアラハ（覚えあらば）
記掛	84b	アンジル（案じる）
鯉魚	24b	フナ
佳婿	43b	ムコジャモノ（婿じゃ者）
家當	6a	イエヤシキ（家屋敷）

家道興旺	102a	シンシャウハンジャウ (身上繁盛)
家伙	33b	ガラクタドウグ (がらくた道具)
家伙	95b	カザイ (家財)
家小	74a	ニョウボウ (女房)
假令	74a	タトヒ (仮令)
假山	29a	ワキヤマ (脇山)
假山	79a	ツキヤマ (築山)
假意	40a	ワザト (わざと)
假做	99b	マネ (真似)
假做呆	66b	トボケマヒ (とぼけまい)
假做歡天喜地	105a	ウレシヒカホヲシテ (嬉しい顔をして)
堅牢	66b	カタヒ (硬い)
間廁	39b	クハ、リ (加わり)
間廁	74b	クハ、リ (加わり)
間事	58a	ホグニハナラス
監斬官	31b	ミトドケ (見届け)
剪徑	39a	オヒハギ (追剥)
剪搶	107b	キリウバイ (切り奪い)
見不到處	10a	キカツカヌカ (気が付かぬが)
見不得	62b	シレマセス (しれませず)
見怪	5b	ニクトオモヒ (憎と思ひ)
賤内	24a	ウチカタ (自分の妻の事)
將包容	27a	ヨイカゲンニリャウケンシテ (良い加減に料簡して)
將就	3a	ヨイカゲンニ (良い加減に)
將來	43b	ユクスエ (行く末)
將來	47a	ヤンガテ (やんがて)
將息	105b	ヤウジヤウ (養生)
漿洗縫補	32b	サイワイニマニアフテ (幸いに間に合うて)
講定	48a	サダメテ (定めて)
講無限的話	33b	イヒタヒコトヤマヘナレド (言いたいことは山々なれど)
交	19b	ワタシ (渡し)
交付	4a	ワタス (渡す)
交還	34b	ワタシカヘス (渡し返す)
交還	67a	ワタス (渡す)
交繳	64a	メシアゲラレ (召し上げられ)
交上	19b	サシアゲ (差し上げ)
嬌子	61a	ジョロウ (女郎)
角牌	8b	カルタ (歌留多)
脚兒	79b	アシ (足)
繳還	33a	アケワタセ (明け渡せ)
繳旨	33b	シンシャウ (進上)
叫喚啼哭	43b	モソツトホエロ
教歡喜	48b	ウレシカラセル (嬉からせる)

教他心穩	105a	ユダンサセテ (油断させて)
教養繼母手裡成人	105a	マ、ハ、ノテニカケテソダテントス (繼母の手にかけて育てる)
較些子	6a	カウナクテカナハヌハズ (こうなくて適わぬはず)
接脚屋	46a	アバラヤ (あばら屋)
接浙	96a	サウテウ (早天)
拮据	95b	イソガシヒ (忙しい)
結髪相聚	75b	オサナナジミ (幼馴染)
結果	6b	ウチハタサント (打ち果たす)
結果	22a	ウチハタス (打ち果たす)
結漓	81b	ヤクソク (約束)
解脱	42b	モギトリサル (挽ぎ取りさる)
今朝	50b	ケサホド (今朝ほど)
今天	82a	コンニチ (今日)
緊急事	40a	キウナヨウジ (急な用事)
緊急事	66a	ダイジ (大事)
緊要關	20b	ダイジノヨウムキ (大事の用向き)
錦帳	79b	ミトチャウ (みと帳)
盡般	18a	コトヘク (悉く)
盡數	92a	ノコラズ (残らず)
贖儀	58a	ハナムケ (贖)
經板兒	33a	ハンギデオシタルゴトク (板木で押したる如く)
經不得	50b	ドウモナルマイ (どうもなるまい)
精緻的	97a	コマカニゴネンイリテ (細かにご念入りて)
驚醒	103a	サダメ (定め)
驚訝	70a	ビックリ (びっくり)
竟不要死	57b	カナラスシンテクタサルナ (必ず死んでくださるな)
扃上	72b	アニサン (兄さん)
揪	54a	ツカンデ (掴んで)
久違	66b	ヒサシヤ (久や)
就	20b	スグニ (すぐに)
就	40b	サツソク (早速)
就地	23b	タチマチ (忽ち)
就地	25a	タチマチ (忽ち)
就地	5b	タチマチ (忽ち)
就勢	26b	スカサズ (透かさず)
就勢	111a	ヤニハニ (矢庭に)
舊歲官糧	41b	キヨネンノネング (去年の年貢)
局面	7a	コノバニ (この場に)
舉起	32a	トリアゲテ (取り上げ)
拒敵	67a	テムカヒスル (出向かいする)
訣別	51b	ワカレテ (分かれて)
絶命端整	32b	ゴサイゴノジンジャウナルご (最期の刃傷なる)
絶早	11a	ムツトキ (六つ時)

俊心腸	47a	サトヒキダラ (聡いきだら)
<b>K</b>		
開瀆盤剥跑走	107b	ヒツサラフテナクナル (引っさらうてなくなる)
慨爽	26a	タノモシヒ (頼もしい)
看過	42a	ミツケテ (見つけて)
看過	70b	ミツケテ (見つけて)
看監	48a	ケンシン
看見	21b	ミツケ (見つけ)
看破	42a	ミツケ (見つけ)
看上	11b	ミツメテイル (見詰めている)
看完	33b	ミトマケタレバ (見届けたれば)
扛起	49a	カキアゲル (かき上げる)
靠你的主張	50b	オマエノリヤウケンシダイ (お前の料簡次第)
靠着	59a	タノミニヨル (頼みによる)
靠着	64b	タノミ (頼み)
靠住了	70b	ノキニカケル (軒にかける)
磕頭	16b	コウヘヲサケテ (頭を下げて)
可愛	10b	カアイラシキ (可愛らしき)
可愛	44a	カアイヤ (可愛や)
可憐	43b	アハレナコトジャ (哀れなことじゃ)
可憐	73b	カワイヤ
可憐不可憐	105a	カワユヒカカワユクナヒカ (かわゆいかかわゆくないか)
可聽見	8a	キイタデアロ (聴いたであろ)
渴想	10b	コヒシクテナラヌ (恋しくてならぬ)
客店	79a	アゲヤ (揚屋)
客廳	61a	オクザシキ (奥座敷)
空箱	34b	ヤシキ (屋敷)
空也不空	61a	アヒテアルカ (空いてあるか)
剝破繁肚	98a	シワバラデモキラネバナラヌ (皺腹でも切らねばならぬ)
哭號	53a	ナゲクヨリ (歎くより)
苦楚	42a	ナンギ (難儀)
苦楚	90b	ナンギ (難儀)
苦苦歎氣	32b	クルシキイキヲホツツキ (苦しき息をほっと付き)
苦勸	13a	イケン (意見) (異見)
苦是	47a	カナシキハ (悲しきは)
苦也	71a	ヨシナヨ (よしなよ)
酷迫	83b	トウヨリ
褲子	14a	ハカマ (袴)
褲子	21b	ハカマ (袴)
跨到	70b	マタゲテ (またげて)
快活	83b	オモシロヒ (面白い)
快性	106b	オトコギ (男気)
寬心	31b	コ、ロシツカニ (心静かに)

寛心	33a	コ、ロシヅカニ (心静かに)
寛坐	35b	ユルリト (ゆるりと)
欸待	10a	モテナシ (持て成し)
欸欸	6a	ヲリイッテ (折入って)
匡得	48a	ドウシテ (どうして)
誑騙	20b	タマサレデ (騙されで)
狂惑	31a	キチカヒ (気違い)
盔甲匣	100a	グソクヒツ (具足櫃)
虧得	16b	オカゲニ (御蔭に)
傀儡戲	95a	ニンキヤウマワシ (人形回し)
睏一睏	13b	ネムル・ヒトネムリ (眠ること・一眠り)
闊念	91a	ホンモウ (本望)

## L

来歴	80a	ショゾン (所存)
来殺	31b	キメツケ (決めつけ)
来由	25b	シダイ (次第)
攔住	14a	ヒキトムル (引き留むる)
攔住	49a	ヒキトメ (引き留め)
濫恪	29b	リンショク (吝嗇)
狼狽	42a	ツマラヌ (つまらぬ)
勞動	4a	コクラウ (ご苦労)
老大	14b	ハナハダ (甚だ)
老公	73b	オット (おっと)
老家翁	46b	オヤヂ (親父)
老婆	46a	ツマ (妻)
老婆	46b	オバ、 (御婆)
老婆	49a	ニャウボウ (女房)
老婆	50a	ニョウホウ (女房)
老婆	79a	オクガタ (奥方)
老婆	79b	カカサ
老實頭兒	53b	リチギナヒトジャ (律儀な人じゃ)
老爺	11a	キデント (貴殿と)
了了	25b	カツガツテン
累次	12b	タビヘ (度々)
理會	22a	カンニン (堪忍)
理會	29a	ブノチャウホウ (不調法)
理會	92a	シャウモ
立票主人	50a	テガカリノトウニン (手掛かりの当人)
連忙	18a	イソガワシク (忙はしく)
連忙	30a	イソガハシク (忙はしく)
連珠箭的苦難	74b	オフタリノミノサイナン (お二人の身の災難)
臉紅面赤	47a	カホヲアカラメアフ (顔を赤らめ合う)
兩段	6b	マッフタツ (真っ二つ)

両段	12b	マッフタツ (真っ二つ)
両段	21b	マッフタツ (真っ二つ)
両辺情願	83b	タガヒノオモヒ (互いの思い)
両髦	11a	ツノカミ (角髪)
両丸砲子	56b	フタツダマ (二つ玉)
踉踉蹌蹌	68a	ヒョロヘヨロヘ
諒必	4a	オモウニ (思うに)
諒必	32b	サダメテ (定めて)
諒必	66a	サダメテ (定めて)
諒必似個	66b	オシテモナヒコト (押してもないこと)
潦草	85a	ノリヤク
料道	56a	ハカリシリテ (量り知りて)
料理後事	92b	アトロカタツケ (後を片付け)
列位	64a	ミナサマ (皆様)
臨死	74b	サイゴ (最期)
凜烈	81b	サムソラ (寒空)
零替	41b	オチフ (落ちる)
零頭	42b	ハシタゼ
領票	86b	ウケトル (受け取る)
領錢糧在身	82b	ゴチギウテウダイイタシテアリ (ゴ知行でだいたしてあり)
令愛	43b	オジャウサマ (お嬢様)
令郎	43b	ワカサマ (若様)
令尊	96b	ゴシンブ (御親父)
溜答孫	71b	ウソツキ (嘘つき)
流水墓盤	86b	シラキノサンボウ (白木の三方)
流徒	29b	エントウ (遠島)
柳花行徑	73b	クルワノツトメ (廓の勤め)
攏来	11a	スリヨル (擦り寄る)
攏来	34a	アツマリ (集まり)
摟抱	11a	タキツク (抱き付く)
摟抱	20a	ダキツカン (抱きつかん)
魯鈍	94b	タハケ (戯け)
陸家也没有黄耳	81b	ヒトツカヒトテモナイウチ (人使いとてもないうち)
陸續	36a	ライヘ
露出妖態	67a	バケノカワアワハヌ (化けの皮表ぬ)
亂亂	26a	テモニアヘ
輪廻	67b	ナラレタ (なられた)
羅網	61a	クモノス (蜘蛛の巣)
落草	41b	トウソク (盗賊)
落款	40b	カキトメテ (書き留めて)
落着火坑	75b	キミケイセイニミヲシヅメ (気味形勢に身を鎮め)
落職	89b	イトマヲトリ (暇御取り)
囉囉	79b	ワルヒコト (悪い事)

驢肝肺起根の好心 71b ウソカラデタマコト (嘘から出た真)

M

媽兒們	61a	ナカ井ドモ
媽袒娘娘出現了	70b	フナタマサマガオミヘナサル (ふなたま様がお見えなさる)
麻醉	65b	クラヒドシ (暗いどし)
馬銜	14a	クツワコ (轡)
埋怨	87a	ウラミ (恨み)
賣弄	24a	ジマン (自慢)
滿懷說得	24b	コ、ロイツハイ (心いっぱい)
滿臉悔氣	20b	キノドクカホニテ (気の毒顔にて)
滿願	32b	マンソク (満足)
漫漫	30b	シヅヘ (静々)
漫漫地	11b	ユウヘト (ゆうゆうと)
忙	45a	イソガワシク (忙わしく)
彪茸兒	46b	クサブカヒ (草深い)
猫兒食拌猫兒飯	106b	ヲナジコトヲスルノジヤ (同じことをするのじゃ)
毛團把戲	54a	チクシャウ (畜生)
毛心	108b	サモシヒコ、ロ (さもしい心)
没巴鼻可把捉	64a	テガカリノトリツクベキナシ (手がかりの取り付くべきなし)
没擺布	39a	シカタナク (仕方なく)
没出豁	22a	ワケモナイ (訳もない)
没出氣	54a	ハライセニナラヌ (腹いせにならぬ)
没犯言忌憚	61b	サシアヒクハヌ (差し合いくわぬ)
没分曉	48b	キキワケナヒ (聞き分けない)
没工夫	95b	ヒマガナヒ (暇がない)
没官	31a	トリアゲ (取り上げ)
没計可施	107a	センカタナリ (詮方なり)
没命的	25a	メツタムセウニ (滅多無性)
没情	20a	ツレナイソヤ (つれないそや)
没事	47b	カワルコトモナク (変わることもなく)
没所措	90a	アルニモアラレズ (あるにもあられず)
没須有之事	101b	スマジキコトハソソジナガラ (すまじき事は存じながら)
没要緊	52b	ヨシナヒコト (由無い事)
没主張	35a	フリャウケン (不料簡)
没主張	67b	フリャウケン (不料簡)
没醉意	79a	スコシモリンキスルキナシ (少しも恠気する気なし)
眉花眼笑	4a	エシャク (会釈)
眉花眼笑	81a	エシャクコボシテ (会釈溢して)
門廉	86a	ノウレン
門路	3a	テダテ (手立て)
門面	47b	カドグチ (門口)
蒙探望	81b	オタヅネニアツカリ (お尋ねにあつかり)
盟約具結	57b	イチミノレシバンヂヤウ



朦朧	70a	オホロナル（朧なる）
蜜嘴糖舌	67a	ツイシヤウ（追従）
綿絮	79b	ウチワタ（うち綿）
免你不過	73b	ユルサレヌ（許されぬ）
勉強	106b	アラケナク（荒氣無く）
面皮	63a	カホツキ（顔付）
巖血	33a	アヤス（あやす）
明天	11a	ミヤウニチ（明日）
冥目	85b	ホモウ
嗚呼	33a	イキタユル（生きたゆる）
瞑目	100b	ホンモウ（本望）
摸時	56b	サクリミレハ（探り見れば）
模様	15b	マネ（真似）
磨礪	22a	ネタバアワセタ（寝刃合わせた）
莫不是危險了	70b	アブナクハアルマヒカ（危なくはあるまいか）
墨斗	40b	ヤタテ（矢立）
目今	13b	タダイマ（只今）
目今	70b	イマ（今）

## 終りに

傍訳リストで高頻度の言葉がはっきりしている。「将来」、「就地」、「可憐」、「老婆」、「理會」、「諒必」、「目今」、「主張」などである。特に「老婆」は六回まで使われ、しかも「ツマ」、「オバ」、 「ニョウボウ」、「オクガタ」などの訳が付された。作者は文脈を考慮しながら、それに最も合った訳を付したのではないかと考えられる。

## 参考文献

香坂順一『白話語彙の研究』光生館 1983

陳慶浩「古代漢文小説弁識初探」『日本漢文小説の世界—紹介と研究—』日本漢文小説研究会編 2001

奥村佳代子『江戸時代の唐話に関する基礎研究』関西大学出版部 2007

嶋崎一郎「『海外奇談序』 訳注」『中国古典研究』第 29 号 1984

于增輝（うぞうき）中国肇慶学院日本語準教授。日中言語接触。博士（日本語文化学）。主な論文に「〈名物六帖〉語彙出処考—〈水滸伝〉との関連において」（『水門—言葉と歴史』2018）、「〈海外奇談〉における漢語考—水滸語彙を軸に—」（『語学教育研究論叢』2018）、「日本における水滸語彙の受容変遷研究」（『言語の研究』2018）、「『南総里見八犬伝』における白話語彙考」（『アジア文化研究』2019）などがある。本論文は広東省特色創新類項目（人文社会科学）（2018WTSCX155）、教育部人文社会科学研究青年科研項目（17YJC752017）の研究成果である。